

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

2009年度

「危機にある子どもたち支援募金」による活動報告書

募金件数:5,599件

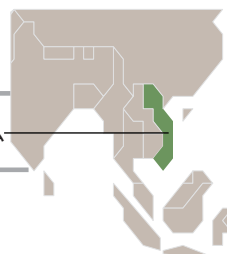
総募金額:46,548,056円

対象期間:2009年2月1日～8月31日

皆さまのご協力により、ベトナム、ウズベキスタン、インドなどにおいて下記をはじめとする支援活動を行うことができました。感謝とともに、ここにご報告させていただきます。

ベトナムにおける人身売買アドボカシー事業

ベトナム



支援地の状況

ベトナムではこの10年間、経済格差の拡大にともない、人身売買の犠牲となる子どもたちの増加が明らかになってきました。多くの子どもたちや人々が様々な手口で取引され、カンボジア、タイ、中国などの周辺国だけでなく、日本を始めとするアジア、欧米諸国へ送られるという、国境を越えた人身売買が行われています。

また、問題への取り組みが進むにつれ、ベトナムは特に周辺国と比べて、人身売買に関する法の整備・施行が遅れていることが明らかになりました。

支援活動の内容

ワールド・ビジョンを始めとするNGOや、関係諸機関が現地でも効果的な活動を行うことができるよう、特にベトナム政府・地方政府に対して、必要な法整備を求める働きかけを行いました。

① 政府職員への啓発活動

活動を行う上で非常に重要なポイントだったのが、政府との信頼関係を築くことでした。

ワールド・ビジョンは今年3～9月の6か月間、他NGOや国際機関、ベトナム政府とともに取り組んできた「社会復帰ネットワーク」における代表として、ベトナム政府との緊密な関係のなかで活動を行うことができました。そして、その中で培った信頼関係が、政府職員を対象として行った啓発活動に大きく貢献しました。

特に、観光省の職員を対象に行った「子どもの買春ツアー」の現状を知るための研修や、ベトナムの観光地での視察などによって、職員が問題の重要性を認識し、問題への取り組みが今後の行動計画に取り込まれたことは、大きな功績でした。

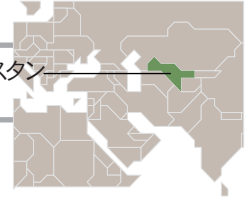
また、今年9月に締結される見込である「人身売買禁止法」に向けて、実際に人身売買の現場で起こっていることを調査し、その結果をふまえたうえでワールド・ビジョンとしての提言を省庁間の起草委員会でを行いました。

② 「国内子どもフォーラム」の共同開催

ベトナム政府や国連機関、他NGOと共同で、ベトナムでは初めてとなる「国内子どもフォーラム」を開催し、子どもたちが党の高位高官に直接意見を伝え、実際に国の律法立案に関わる機会を持ちました。



「子どもフォーラム」で意見を述べ合う子どもたち



支援地の状況

ウズベキスタンでは、文化的・社会的な背景から障がい者への差別や偏見が強く残っており、多くの障がい児・者は隠された存在として、自宅や施設に閉じ込められたまま、孤立して生活しています。また、地域で受けることができる医療・社会サービスも限られており、家族も障がいに関する十分な知識を持っていないため、障がいの悪化や二次障がいを引き起こしている子どもたちも多くいます。

支援活動の内容

障がいの有無に関わらず、誰もが希望を持って生き生きと生活することができる社会を目指して、ワールド・ビジョンでは2008年5月から現地での活動を行っています。

①コミュニティ・モビライザーによる活動

ウズベキスタンの伝統的な自治組織である「マハラ」計6カ所に、障がい児・者とその家族に社会サービスを提供し、障がい者の社会参加を促進する拠点CBR（地域に根ざしたリハビリテーション）ポイントを立ち上げました。また地域のリーダーとともに、障がい当事者や障がい児を持つ母親のなかから、CBRポイントで働くコミュニティ・モビライザーを選出し、研修を実施しました。

研修後、まずモビライザーたちは地域の家を一軒一軒訪ね、障がいを持つ人々を発掘しました。彼らの懸命な働きにより、6月末時点までに217名の障がい児・者を見つけ出すことができました。中には住民として登録されていない人もおり、モビライザーたちは発掘した障がい児・者たちの家を定期的に訪ね、研修で学んだ障が

いに関する知識を伝えるだけでなく、本人や家族の相談にのり、彼らの抱える問題の解決と一緒に模索するなど、サポートを行っています。

②社会経験の機会提供

さらにCBRポイントでは週に1～3回、定期的に障がい児・者が集い、レクリエーション活動を行う場を提供するだけでなく、地下鉄やバスに乗って遠足に行ったり、練習後に買い物に行くなど、障がい児・者には不要と思われがちな、社会経験の機会も提供しています。

このような人と関わる活動は、これまで家に閉じ込められ孤立して生活していた障がい児・者たちの成長に大きく貢献し、自分の子どもの変化に驚き喜ぶ家族の声も、頻りに届けられています。また、地域の人々の「障がい」に対する意識向上にも大きく貢献しており、障がい者が住みやすい社会環境を整えるための一助となっています。



CBRポイントでのレクリエーション活動に参加する障がい児たち

今後の活動

ワールド・ビジョンの支援活動終了（2010年3月予定）後も、CBRの活動が継続されるよう、モビライザーのさらなる能力向上をはかります。同時に、CBRポイントが地域の人々のものとなり、「障がい」に関わる問題解決に主体的に取り組んでいくことができるよう、セルフ・ヘルプ・グループ（障がい当事者や親の会）の能力強化にも注力していきます。

また、CBRという障がいに対する新しいアプローチが政府レベルでも認められ、広がっていくよう、政府へのアドボカシーにも力を入れていく予定です。



ミーティングを行うモビライザーたち

フォーラムに参加した子どもたちは人身売買の実情を学び、議論し、その結果として「私たちは、危機にある子どもたちすべてを助け、支援するプログラムの必要性を感じています」という声明を作り、読み上げました。

③人身売買の被害を受けた子どもたちへのケア
人身売買の現場から救出された子どもたちをケアし、社会復帰を助ける現地NGO「ブルー・ドラゴン子ども財団」の活動を支援しました。

具体的には、強制労働のため学校に通うことができなかった14人の子どもたち(12~16歳)が、勉強についていけることができるよう、時間外の学習補助を行いました。結果として、14人全員が途中退学することなく、勉強を続けることができました。そのうち何人かの子どもたちは、学校で「優良」という評価を受けるまでになりました。

④地域の人々への啓発活動

人身売買予防を目的として、地域住民の人々を対象としたニュースレターを4回発行しました。ニュースレターでは各地域で行われている活動の紹介や、人身売買

に関するベトナムの法律や政策について分かりやすく説明するだけでなく、活動のなかで行われたワークショップの参加者が書いた詩やストーリーを紹介し、多くの人々が人身売買についての理解を深めることができました。



ワークショップのようす

今後の活動

今後は、これまでに築いたベトナム政府との関係を軸に、人身売買にかかわる法整備が迅速に進められ、的確に施行されるよう、政府への働きかけを続けていく予定です。

担当:池内スタッフから

人身売買の犠牲になっているのは、家族を支えるために出稼ぎに出た人々や、両親を失うなど、特に厳しい状況に置かれた子どもたちです。しかし、この問題は搾取地(各国地方)、経由地(各国・近隣国都市部)、到着地(タイ等)が国境を越えて広がっているために、より複雑化し、取り組みが困難になっています。問題の根本的な解決のためには、各国政府が問題を認識し、活動方針のなかに今後の取り組み計画を盛り込むことが重要です。

ワールド・ビジョンでは今後も、他NGOや国際機関とともに、問題解決に向けて各国政府に働きかけていきます。



支援地から —— 「今は本当に幸せです」

ベトナム中央部にある小さな村に住む、ンガン君(仮名・15歳)は、2008年12月に救出されるまでの約1年間、ホーチミンの縫製工場で、1日14時間労働、休みは2週間に1度、給料は年間170ドルという悪条件のもと働かされていました。当時を振り返り、ンガン君は話します。

「ホーチミンで働かされている時は、まるで監獄にいるような感じでした。外に出ることも、余分なお金を持つことも許されませんでした。1日約14時間、休みなしで働かされて、疲れて間違えると監督官にひどく怒られ、とても怖かったです。救出された時はもう涙でいっぱいでした。両親や弟、妹、そして友だちに会えて、本当に本当に嬉しかった」

家に戻ることができたンガン君は、支援を通じて学習補助を受けています。「課外授業のおかげで、学校の授業にもついていけるようになり、クラスの友だちも僕のことをからかわなくなりました。学校でも『優良』をもらっています。勉強することで、将来のために準備することができるので、本当に嬉しいです。ホーチミンで奴隷のように働かされていた頃に比べて、今は本当に幸せです」



救出後、友だちに囲まれるンガン君(中央)

担当: 田中スタッフから

施設に住む子どもたちを訪れるたびに、悔しい思いでいっぱいになります。可能性に満ちあふれている子どもたちから、個性や希望が奪われているからです。そして、CBRポイントに集まる子どもたちが、友だちと一緒に生き生きと楽しそうにしている姿を見ると、1人でも多くの子どもたちが地域で愛情を受けて育まれるようにと、祈らずにいられません。

ワールド・ビジョンの支援活動で目指していることは、「障がい」をなくすことでも、治すことでもありません。CBRを通じて、「障がい」の有無に関わらず、誰もが与えられた可能性を実現できるような社会を目指し、活動してきました。CBR活動により、障がい児・者1人1人が自信と自尊心を回復し、夢や希望を持ち始めています。そして、周囲の人々の「障がい」に対する意識も変わり始めています。

障がい児・者とその家族を含む地域の人々によって、1人1人の命が輝ける社会づくりが進められるよう、これからも彼らと悲しみや喜びを共にしながら、支援活動を続けていきます。



インド・カナタカ州ベラリー郡におけるHIV/エイズ事業



インド

支援地の状況

支援地では伝統的に売春が容認されてきた背景から、近隣地域よりもHIV感染率が高く、多くの人々や子どもたちが、感染による疾病に苦しんでいます。彼らの多くが、HIV/エイズに対する偏見にさらされ、収入を得ることも困難だけでなく、家族もHIV感染者を適切にケアするための知識や技術を持っていません。

支援活動の内容

①地域の人々への啓発活動

地域で毎月集会を開き、地域の人々にHIV感染の原因や予防、感染者を適切にケアするための方法を伝えました。また、HIVに感染した女性たちの自助グループとのミーティングを持ちました。HIV感染によって困難な状況におかれた人々同士でグループを作ることによって、精神的に助け合える仲間だけでなく、さらなる感染を予防するための知識を得ることができます。

②子どもたちへのライフスキル教育

子どもたちがHIV感染から自分の身を守ることができるよう、参加型のライフスキル教育を実施し、335人の子どもたちが修了しました。将来を担う子どもたちが、様々な困難や誘惑に直面した際にどう考え、判断



子どもたちへのライフスキル教育のようす

すべきかを学ぶことで、自分だけでなく他者を守る力身につけ、地域そのものが変わっていくことが可能になります。

③経済支援

45人のHIV感染者とその家族に、所得向上のための支援を行いました。野菜などを売る売店を始めるために必要な物資や、羊、牛、水牛などの家畜を提供されたことで、収入を得て、家計を支えることができるようになりました。HIV感染による疾病によって、外で働くことが難しい彼らにとって、仕事を始められたことは経済的にも大きな支えになるだけでなく、大きな喜びとなりました。



経済支援を通じて、家畜を提供された女性

④HIV感染者ネットワークの強化

支援終了後、地域の人々自身で活動を続けることができるように、県のHIV感染者ネットワーク強化のための研修を実施しました。内容は会計管理や申請書作成、ホームページケア、子どもたちへのライフスキル教育のための訓練など様々です。すでに、ネットワークによるエイズ遺児への支援活動など、少しずつですが自主的な活動を行えるようになってきています。

●お問い合わせは・・・ 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-3367-7621(支援者サービス課直通) FAX:03-3367-7652

e-mail: dservice@worldvision.or.jp